

八千代市は、市民の足=各地域のコミュニティバス運行を再開せよ!



市民の高齢化に伴う交通弱者が増加の一途

八千代市では1988年から市内4コースに八千代市公共施設循環バスの「ぐるっと号」が運行され市民の足になっていましたが、不採算を理由に2012年に廃止されました。2014年からは「八千代市コミュニティバス」として、八千代台コースのみとなり、他の地域では多くの交通弱者が存在しており、民間バスの現在の八千代市内のバス路線は、八千代台、緑が丘、勝田台、八千代中央各駅などへのアクセスが中心と

なっています。

一方、市内には、高津団地、村上団地、米本団地などの大規模団地があります。これらの地域は高齢化が進み、自家用車などの移動手段を持たない方が多く住んでいます。しかしこれらの地域から、市役所、市民会館、八千代医療センターへ直接行けるアクセスがありません。市民の高齢化に伴う交通弱者が増加の一途を辿っています。

コミュニティバス運行を求める地域市民の声が拡大

ただでさえ移動手段が限られる地域で、高齢による免許返納した世帯では、日常の買い物や通院にも一苦勞です。若い世代も将来のことを考えると「八千代市に住み続ける」という発想がなくなり、今後の人口減少化にもつながる問題です。

そこで、一昨年に「高津コミュニティバスを走らせる会」が結成され、高津団地とローズタウンを中心に「コミュニティバスアンケート」を実施。回答者の98%(434人)が「コミュニティバス運行を希望する」との回答でした。

市民の声は各地域に拡大し、「勝田台地域の公共交通を考える会」や「八千代市の公共交通を考える会(準備会)」が結成され、11月には「八千代市の公共交通を考えてみよう」と題し多くの市民が参加した学習会や学習会が開催され、多くの市民が参加しました。市民による地域活動は拡大されています。



多くの市民が参加した学習会

公約を破る服部市長と請願を不採択にする市議会

服部市長は初の市長選挙の目玉公約のひとつに「東葉高速鉄道の運賃値下げ」を掲げて初当選しました。しかし、すぐさま断念。そして2期目の市長選挙目玉公約のひとつが「コミュニティバスに代わるコンパクトカーの運行」でしたが、これも断念。服部市長は2期とも公約違反をされていて涼しい顔。5月の市長選挙に立候補を表明しています。ちゃんと公約を果たしてから立候補してほしいものです。

また、一昨年の6月議会では高津コミュニティバスを走らせる会と、高津地域の3自治会連名で「コミュニティバス運行を求める請願書」を2607筆の賛同署名とともに提出しましたが、議会多数派の自民・公明会派などの理由を示さない反対で不採択になっています。ちなみに賛成した議員は堀口明子議員、伊原忠議員、飯川英樹議員、三田登議員、高山敏朗議員のわずか5名でした。

市民の足=各地域コミュニティバスの運行を再開させよう

各地域のコミュニティバスは市民の足です。だから運行している自治体も多くあります。それを「採算性」を理由に八千代台コース以外は廃止してしまうのは市民不在の市政としかいえません。服部市長もコミュニティバスの重要性

を認めており、それならば公約を果たすべきです。「住みやすい街づくり」を実現するために、市民の足=各地域コミュニティバスの運行を再開させましょう。

